

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年7月31日
【四半期会計期間】	第55期第1四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
【会社名】	株式会社セゾン情報システムズ
【英訳名】	SAISON INFORMATION SYSTEMS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員CEO 葉山 誠
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂一丁目8番1号
【電話番号】	03(6370)2930
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営戦略本部長 小山 和也
【最寄りの連絡場所】	東京都港区赤坂一丁目8番1号
【電話番号】	03(6370)2930
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営戦略本部長 小山 和也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第54期 第1四半期 連結累計期間	第55期 第1四半期 連結累計期間	第54期
会計期間	自 2022年4月 1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月 1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	5,790,937	5,915,977	23,952,826
経常利益 (千円)	496,079	648,587	2,223,378
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	404,604	367,256	1,440,767
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	550,388	461,020	1,452,612
純資産額 (千円)	14,569,479	14,474,776	14,742,730
総資産額 (千円)	21,296,759	21,566,933	21,299,058
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	24.98	22.67	88.94
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	68.4	67.1	69.2

(注)1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費や設備投資が持ち直す等、全体として緩やかに回復しております。一方で、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなる等、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社グループが属する情報サービス産業においては、グローバル化、消費者ニーズの多様化及び国内労働力人口の減少等ビジネス環境の急速な変化や不確実性への対応を目的に、企業・行政のDXに対する意欲が高まり、IT投資を後押しすることから、引き続き成長が予想されております。

当社グループは、「世界中のデータをつなぎ、誰もがデータを活用できる社会を作る。」をミッションに、50年を超えて培ったテクノロジーにより、金融業・流通小売業をはじめとする多種多様な業種向けシステム開発・運用等及びデータ連携サービスを提供しております。前連結会計年度にリリースしたiPaaS（クラウド型データ連携プラットフォーム）である「HULFT Square」を基盤として、より一層の事業構造変革を推し進めるべく、当連結会計年度は戦略として「4つのシフト」（事業シフト・技術シフト・組織シフト・人材シフト）を実行しております。

このような中、当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高は5,915百万円（前年同期比2.2%増）、営業利益は629百万円（同27.7%増）、経常利益は648百万円（同30.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は367百万円（同9.2%減）となりました。

売上高は、企業・行政のDX化意欲の向上を受け、HULFT事業、データプラットフォーム事業及び流通ITサービス事業が拡大したこと等により、増収となりました。営業利益及び経常利益は、人的資本への費用投下が進んだ一方、売上高の増加及び「HULFT Square」に関わる開発費用の低減等により、増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、データプラットフォーム事業において減損損失を計上したこと等により、減益となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績は次のとおりであります。以下、セグメント間取引については相殺消去しておりません。

なお、「HULFT Square」について、前連結会計年度までは新サービスの研究開発であったため全社費用としておりましたが、2023年2月にリリースしたことに伴い、当第1四半期連結会計期間より「データプラットフォーム事業」に区分しております。

#### HULFT事業

HULFT事業は、国内データ連携ソフトウェアのスタンダードである当社の主力製品「HULFT」、「DataSpider」及び関連製品群の販売・サポートサービスを提供しております。

売上高は、サポートサービスの更新が順調に推移したこと等より、2,366百万円（前年同期比1.2%増）となりました。2023年6月末現在におけるサポートサービス契約本数は、前年同期に比べて、「HULFT」は2,584本増加し60,405本、「DataSpider」は435本増加し5,227本と順調に推移いたしました。営業利益は、売上高の増加等により、1,002百万円（同7.7%増）となりました。

#### データプラットフォーム事業

データプラットフォーム事業は、当社の強みである「HULFT」「DataSpider」「HULFT Square」を活用し、企業内・企業間のシステムやデータとSaaSをつなぐことで、業務効率化、経営情報可視化による意思決定支援及び経営刷新に繋げる各種サービスを提供しております。

売上高は、企業のデータ連携基盤構築案件が順調に拡大したこと等により、599百万円（同23.7%増）となりました。一方で、サービスの立ち上げフェーズである「HULFT Square」の原価の発生等により、575百万円の営業損失（前年同期は261百万円の営業損失）となりました。

なお、一部提供サービスの収益が見込まれなくなったため、減損損失として特別損失に87百万円を計上しております。

#### 流通ITサービス事業

流通ITサービス事業は、流通小売業・航空業向けシステム開発・運用等を提供しております。

売上高は、流通小売業・航空業を中心にお客様のIT投資が回復してきたこと等により、790百万円（前年同期比33.9%増）となりました。営業利益は、売上高の増加等により、14百万円（前年同期は74百万円の営業損失）となりました。

#### フィナンシャルITサービス事業

フィナンシャルITサービス事業は、金融業向けシステム開発・運用等を提供しております。

売上高は、既存領域に関わる情報処理サービスの減少等により、2,159百万円（前年同期比11.3%減）となりました。営業利益は、売上高の減少等により、188百万円（同35.5%減）となりました。

#### （トピックス）

当社グループは、ミッション「世界中のデータをつなぎ、誰もがデータを活用できる社会を作る。」を体現するため、2024年4月に「株式会社セゾンテクノロジー」へ商号変更をいたします。テクノロジーが持つ無限の可能性への誇りを基盤に、当社グループが第一線で提供してきた価値をさらに発展させて社会に届けていくとの決意を込めたものです。当第1四半期連結累計期間におけるテクノロジーに関する施策は以下のとおりです。

##### ・大規模言語モデル（Large Language Models、LLM）研究会発足 1

当社グループは、誰もが普通の言葉で簡単かつ安全にデータを活用できる未来の実現に向け、大規模言語モデルに関する全社的な研究会である「LLM Mavericks 2」を発足いたしました。本研究会を通じて、先端テクノロジーに関する知見の蓄積や発展を加速させ、自社業務やお客様向け製品サービスへの早期活用を目指しております。

- 1 大規模言語モデル（Large Language Models、LLM）とは、非常に巨大なデータセットとディープラーニング技術を用いて構築された言語モデルのこと
- 2 Mavericksとは、新しいアイデアやアプローチを追求する個性的な人々のこと

##### ・サイオステクノロジーとの協業強化

当社グループとサイオステクノロジー株式会社は、ノンプログラミング/ノーコードでシステム間のデータやアプリケーションをつなぐ「DataSpider」と高可用性ソリューション「LifeKeeper」で技術協力し、基幹業務系システムにおけるデータ連携自動化と安定した稼働を実現させる連携ソリューションを共同で推進することを発表いたしました。この協業強化の目的はユーザー企業の要望に応えることです。製品機能や性能についての相互理解を深めることで、ユーザー企業に対してより一層高品質なサポートを提供し続けてまいります。

##### ・データサイエンティスト育成支援の経過公表

当社グループは、これまでのデータエンジニアリングで培ってきたノウハウを活かし、2019年より滋賀大学・帝国データバンクData Engineering and Machine Learning Center（以下、DEMLセンター）で学生のデータサイエンティスト育成を支援しております。DEMLセンター開設後、在籍学生数は約3年間で延べ44名になり、当社提供による「DataSpider」の研修は、同センター以外の学生も含め50名が受講しております。この中から27名がデータサイエンティストとして様々な企業・団体に活躍しております。

(TSR (株主総利回り))

当社グループは、目指す高収益企業にふさわしい株主還元を実現するためのベンチマーク目標として、TSRを経営指標の1つに設定しております。

当社グループの事業構造は、システム開発・運用と自社パッケージソフトウェア販売とがバランスしており、情報技術産業の中でも類似の事業構造を持つ企業が少ないと考えます。したがって、ベンチマークとするTSRは一定数の上場企業を含み、恣意性を排除した対象とするため、GICS (世界産業分類基準)における当社が属する産業グループ (4510: ソフトウェア・サービス) に同様に属する国内上場企業のTSRとしております。

評価期間は、2019年3月末を基準 (100%) として評価をしており、その推移は次のとおりです。

	2020年3月末	2021年3月末	2022年3月末	2023年3月末	2023年6月末
当社	119.2%	160.5%	149.6%	151.1%	152.4%
同業他社 平均	87.0%	135.6%	121.9%	124.4%	134.5%

なお、当社TSRは業界平均を大きく上回って推移しております。これは、当社も含めたDXに関わる銘柄がコロナ禍を契機にTSRを押し上げたことに加えて、当社がかねてより進めている受託開発型からサービス提供型への事業構造変革が、当社の将来の利益成長につながることを資本市場に理解いただけているためと推察されます。当社は引き続き資本市場との対話に努めてまいります。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末より267百万円増加し21,566百万円となりました。主な増加要因は、現金及び預金と同417百万円増加したこと、流動資産のその他に含まれる前払費用が同255百万円増加したこと等によるものであります。また、主な減少要因は、売上債権の回収により受取手形、売掛金及び契約資産が同435百万円減少したこと、減損損失の計上及び減価償却等により有形及び無形固定資産が同148百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計は同535百万円増加し、7,092百万円となりました。主な増加要因は、前受金が同834百万円増加したこと等によるものであります。また、主な減少要因は、賞与支給により賞与引当金が同308百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は同267百万円減少し、14,474百万円となりました。この要因は、利益剰余金が、剰余金処分による配当財源への割当てにより同728百万円減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により同367百万円増加したこと等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末より2.1ポイント減少し、67.1%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループが支出した研究開発活動の総額は34百万円であり、製品・サービスの研究開発によるものであります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結累計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年7月31日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	16,200,000	16,200,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株であります。
計	16,200,000	16,200,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	-	16,200,000	-	1,367,687	-	1,461,277

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 500	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 16,188,200	161,882	-
単元未満株式	普通株式 11,300	-	-
発行済株式総数	16,200,000	-	-
総株主の議決権	-	161,882	-

（注） 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式が84株含まれております。

【自己株式等】

2023年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 （株）	他人名義 所有株式数 （株）	所有株式数 の合計 （株）	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合（％）
（自己保有株式） 株式会社セゾン情報システムズ	東京都港区赤坂一丁目 8番1号	500	-	500	0.0
計	-	500	-	500	0.0

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	12,699,075	13,116,268
受取手形、売掛金及び契約資産	3,462,303	3,026,826
有価証券	500,000	500,000
商品	211	249
仕掛品	23,166	23,842
貯蔵品	984	4,264
その他	753,444	1,012,625
貸倒引当金	169	-
<b>流動資産合計</b>	<b>17,439,016</b>	<b>17,684,076</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	823,461	823,607
減価償却累計額	430,383	448,287
建物及び構築物(純額)	393,077	375,319
工具、器具及び備品	1,763,255	1,778,731
減価償却累計額	1,330,755	1,365,491
工具、器具及び備品(純額)	432,500	413,239
リース資産	471,852	471,852
減価償却累計額	458,242	459,499
リース資産(純額)	13,609	12,352
建設仮勘定	-	1,500
<b>有形固定資産合計</b>	<b>839,187</b>	<b>802,412</b>
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	1,071,950	949,743
のれん	1,672	1,385
その他	82,757	93,187
<b>無形固定資産合計</b>	<b>1,156,380</b>	<b>1,044,316</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	335,348	344,775
敷金	564,322	563,455
退職給付に係る資産	242,174	270,777
繰延税金資産	663,476	660,469
その他	64,526	202,023
貸倒引当金	5,374	5,373
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>1,864,473</b>	<b>2,036,127</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>3,860,041</b>	<b>3,882,856</b>
<b>資産合計</b>	<b>21,299,058</b>	<b>21,566,933</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	839,344	802,740
リース債務	4,085	3,636
設備関係未払金	16,221	6,793
未払費用	470,448	500,821
未払法人税等	318,455	227,329
前受金	3,357,657	4,192,391
賞与引当金	657,599	349,184
その他	555,631	672,802
流動負債合計	6,219,444	6,755,699
固定負債		
リース債務	9,907	9,107
資産除去債務	326,976	327,349
固定負債合計	336,883	336,457
負債合計	6,556,328	7,092,156
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,367,687	1,367,687
資本剰余金	1,454,233	1,454,233
利益剰余金	11,772,453	11,410,735
自己株式	865	865
株主資本合計	14,593,509	14,231,791
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,134	15,119
為替換算調整勘定	221,965	310,744
退職給付に係る調整累計額	85,879	82,879
その他の包括利益累計額合計	149,220	242,984
純資産合計	14,742,730	14,474,776
負債純資産合計	21,299,058	21,566,933

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月 1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月 1日 至 2023年6月30日)
売上高	5,790,937	5,915,977
売上原価	3,525,430	3,805,550
売上総利益	2,265,507	2,110,426
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	18	170
役員報酬	31,757	50,748
従業員給料及び賞与	480,387	513,936
賞与引当金繰入額	127,567	130,907
退職給付費用	32,282	34,224
福利厚生費	106,615	102,816
減価償却費	27,621	31,228
のれん償却額	21,769	286
研究開発費	385,133	34,260
その他	559,425	582,772
販売費及び一般管理費合計	1,772,541	1,481,010
営業利益	492,965	629,416
営業外収益		
受取利息	2,106	9,088
受取配当金	43	43
為替差益	-	8,702
持分法による投資利益	541	825
その他	1,354	650
営業外収益合計	4,045	19,310
営業外費用		
支払利息	99	138
為替差損	797	-
その他	34	1
営業外費用合計	931	139
経常利益	496,079	648,587
特別損失		
固定資産処分損	1,345	679
減損損失	-	87,378
特別損失合計	1,345	88,058
税金等調整前四半期純利益	494,733	560,528
法人税等	90,129	193,272
四半期純利益	404,604	367,256
親会社株主に帰属する四半期純利益	404,604	367,256

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年 4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年 4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	404,604	367,256
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	296	1,984
為替換算調整勘定	131,444	80,598
退職給付に係る調整額	4,955	3,000
持分法適用会社に対する持分相当額	9,679	8,180
その他の包括利益合計	145,783	93,763
四半期包括利益	550,388	461,020
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	550,388	461,020

【注記事項】

( 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理 )

	当第1四半期連結累計期間 ( 自 2023年4月1日 至 2023年6月30日 )
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

( 四半期連結損益計算書関係 )

減損損失

当社グループは、以下の資産について減損損失を計上しております。

当第1四半期連結累計期間 ( 自 2023年4月1日 至 2023年6月30日 )

用途	種類	場所
データプラットフォーム 事業	工具、器具及び備品 ソフトウェア	東京都江東区

当社グループは、事業用資産について各事業セグメントを基礎としつつ、経営管理単位を勘案しグルーピングを行っております。

上記のデータプラットフォーム事業資産については、一部提供サービスの収益が見込まれなくなったため、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。当該減少額は、減損損失として特別損失に87,378千円を計上しております。

減損損失の内訳は、工具、器具及び備品918千円、ソフトウェア86,460千円であります。

当資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値が見込めないため、回収可能価額を零として評価しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月 1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月 1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	184,764千円	167,982千円
のれんの償却額	21,769	286

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月21日 定時株主総会	普通株式	728,973	45.00	2022年3月31日	2022年6月22日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月20日 定時株主総会	普通株式	728,973	45.00	2023年3月31日	2023年6月21日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2
	HULFT事業	データプラットフォーム事業	流通ITサービス事業	フィンシャルITサービス事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,280,650	484,596	590,168	2,435,522	5,790,937	-	5,790,937
セグメント間の内部売上高又は振替高	58,275	-	-	-	58,275	58,275	-
計	2,338,925	484,596	590,168	2,435,522	5,849,212	58,275	5,790,937
セグメント利益又は損失 ( )	930,933	261,703	74,340	291,362	886,251	393,286	492,965

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額 393,286千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない「HULFT Square」に係る研究開発費等であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2
	HULFT事業	データプラットフォーム事業	流通ITサービス事業	フィンシャルITサービス事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,366,984	599,584	790,314	2,159,093	5,915,977	-	5,915,977
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	2,366,984	599,584	790,314	2,159,093	5,915,977	-	5,915,977
セグメント利益又は損失 ( )	1,002,872	575,926	14,396	188,074	629,416	-	629,416

(注)1 「HULFT Square」について、前連結会計年度までは新サービスの研究開発であったため全社費用としておりましたが、2023年2月にリリースしたことに伴い、当第1四半期連結会計期間より「データプラットフォーム事業」に区分しております。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「データプラットフォーム事業」セグメントにおいて、一部提供サービスの収益が見込まれなくなったため、減損損失として特別損失に87,378千円を計上しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	HULFT事業	データプラットフォーム事業	流通ITサービス事業	フィナンシャルITサービス事業	
一時点で移転される財及びサービス	768,612	300,009	75,900	413,717	1,558,238
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	1,512,037	184,587	514,268	2,021,805	4,232,699
顧客との契約から生じる収益	2,280,650	484,596	590,168	2,435,522	5,790,937
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	2,280,650	484,596	590,168	2,435,522	5,790,937

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	HULFT事業	データプラットフォーム事業	流通ITサービス事業	フィナンシャルITサービス事業	
一時点で移転される財及びサービス	745,242	297,774	57,128	359,906	1,460,052
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	1,621,741	301,810	733,185	1,799,187	4,455,925
顧客との契約から生じる収益	2,366,984	599,584	790,314	2,159,093	5,915,977
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	2,366,984	599,584	790,314	2,159,093	5,915,977

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純利益 (円)	24.98	22.67
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	404,604	367,256
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	404,604	367,256
普通株式の期中平均株式数 (株)	16,199,416	16,199,416

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年7月31日

株式会社セゾン情報システムズ  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 三澤 幸之助

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柴田 勝啓

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社セゾン情報システムズの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社セゾン情報システムズ及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。